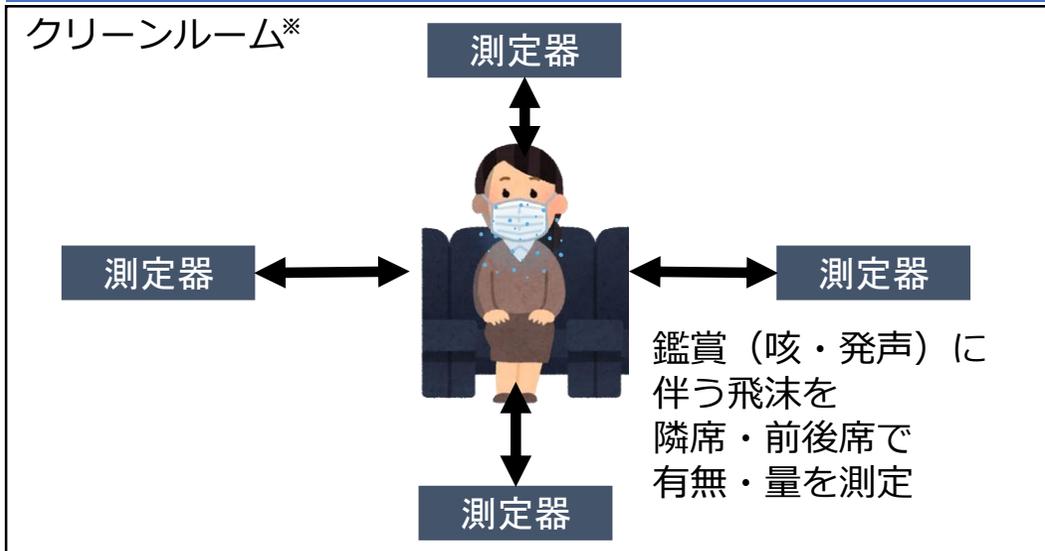


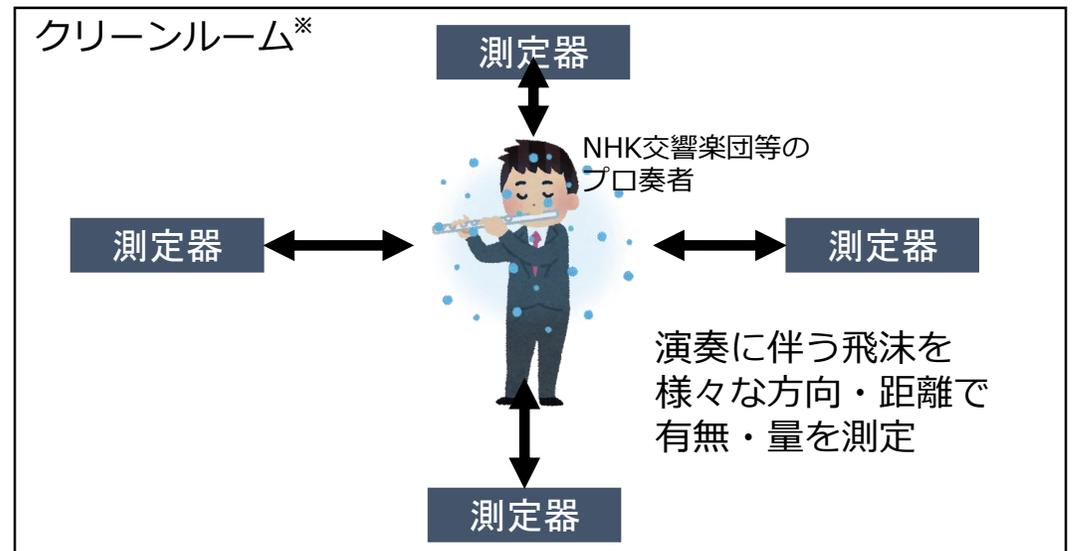
第一に取り組む課題： クラシック音楽の演奏会にソーシャル・ディスタンスは必要か？

- 安全に音楽活動を再開してゆくには、新型コロナウイルスの感染リスクを科学的に評価し、対策を取ることが必要です
- 第一に取り組む課題として「聴衆間・奏者間の距離」を比較・検討します。聴衆・演奏者から発生する飛沫（新型コロナの感染源）について、埃の影響を無くせる特殊なクリーンルームで精密な測定器（パーティクルカウンター）を用いて測定します。それにより通常では視覚化されない飛沫も含めて、環境の影響なく測定が可能です。
- 「従来の距離」と「ソーシャル・ディスタンスをとった場合」の測定結果を比較して結果に差がなければ、従来の距離で演奏会を行うことを主張する大きな根拠となります。従来の距離で飛沫等がより多く測定された場合でも、その程度に応じて異なる対応を検討します。
- これにより、プロに加え、アマチュア音楽活動（吹奏楽・合唱など）が早期に安心して活動再開するための指針を提供し、音楽文化の歩みを前に進めていくことを支援します

疑問① 聴衆の周囲「前後左右隣接<->前後左右1席離れ」で、飛沫等の測定量に差はあるか？



疑問② 演奏者の周囲「従来の距離<->ソーシャル・ディスタンス」で、飛沫等の測定量に差はあるか？



*新日本空調株式会社長野ラボ（長野県茅野市）の超高清浄度環境